

な か ま 12月

【電話番号】089-958-2000 【FAX】089-958-2014

【ホームページ】<http://www.e-inochi.jp/> 【メール】ehime-1111@e-inochi.jp

12月スケジュール

日付	時間	行事	内容	場所
1日(木)	11:00~	継続研修	宇都宮G / 多目的室	パフィオうわじま
3日(土)	9:30~	継続研修	川本G / 3F 作業室	松山市総合福祉センター
	13:30~	継続研修	船戸G / 第2会議室	新居浜市総合福祉センター
	13:30~	第41期 電話相談員養成講座	修了式 / 研修室1, 2	済美会館
8日(木)	19:00~	研修企画委員会		WEB会議
9日(金)	18:45~	継続研修	武井G / 3階作業室	松山市総合福祉センター
10日(土)	8:00~	∞∞ 24時間フリーダイヤル ∞∞		相談室
	10:00~	継続研修	わかばG / 研修室1・2	済美会館
11日(日)	イオン幸せの 黄色いレシートデー		イオン松山店 (7:00~23:00) マックスバリュ今治阿方店 (9:00~22:00)	
12日(月)	18:30~	継続研修	信原G / 研修室2	済美会館
14日(水)	10:00~ 12:00	外報誌12月号発送作業 / 研修室2		済美会館
15日(木)	9:45~	継続研修	大久保G / 研修室2	済美会館
	18:00~	理事会 / 研修室2		済美会館
20日(火)	18:30~	運営会議 / 研修室2		済美会館
21日(水)	18:45~	継続研修	近藤G / 5F小会議室	松山市総合福祉センター
23日(金)	13:00~	継続研修	横田G / 研修室2	済美会館

2022年10月26日~11月23日までの寄附金および後援会費

寄附金としての入金 : 9件 182,000円

後援会費としての入金 : 2件 6,000円

~多くの方々ご支援いただきました。心より感謝申し上げます。~

委員会・部会活動報告

運営会議 11月22日(火) 8名出席
【次回】12月20日(火)18:30~

足立(総務)、加藤(統計)、木村(交流イベント)
関家(広報誌編集)、田村(相談室) 中矢(総務)
永井(研修企画)、川崎(事務局)出席

1. 報告事項

(1) 各委員会・部会からの報告

【研修企画委員会より】

- ・11月23日の一日研修は中止となった
- ・11月20日(日)18:30より研修サポーター会議
議題 41期の実習サポートの件
通話録音ガイダンスについて
内閣府の「孤独孤立対策官民連携プラットフォーム」について意見交換

【その他の部は別欄参照】

(2) 事務局からの報告

① 連盟からの連絡事項

- ・ツイッターアカウント[@いのちの電話]のこと
- ・統計委より受信カードの項目の変更について
- ・広報委よりオンライン研修会の報告
- ・FD研修について 2回から6回に増加

② 愛媛県・松山市その他市町

- ・11/1 愛媛県指導監査(9/30)の結果通知

③ その他

- ・ホームページに「なかま」
いのちの電話関係者のページを開けて
パスワードを入れる
- ・12月に理事会の開催予定
議題:上半期の事業報告

2. 検討事項

(1) 令和4年度愛媛県自殺予防電話相談員養成業務委託金の使い方について

- #### ① 相談員の研修のための交通費支給について
- 事務局より→全体の予算の消化状況等を確認
異論がなければ先月の試案の通り
認めていただきたい

全会一致で承認

- #### ② 「愛媛いのちの電話」の紹介動画について
- 事務局より→「相談員募集」の予算に余裕がある
動画の制作を検討してはどうか

- ・現在の動画はよく出来ている
- ・画像が粗いと感じる
→今年度は見送り、来年度再検討する
- ・その他、募集に効果的な方法について意見交換

(2) 内閣府の「孤独孤立対策官民連携プラットフォーム」について

- ・研修サポーター会議(11/20)の報告
運営会議でのこれまでの経緯や方向性について報告し、意見交換を行った

→運営会議としては引き続き内閣府や連盟の
取組に注目し、場合によっては「試行」
に参加する

広報誌編集部 11月10日(日) 3名出席

外報誌発送作業を行います

ご協力よろしくお願いたします

【日時】12月14日(水)10:00~

【場所】済美会館 研修室2

交流イベント部 11月27日(日) 12名出席
【次回】3月10日(金)11:00~

相談員交流会の開催 参加者 24名

内容:理事長のメッセージ・事務局からの連絡
フリートーク・100円均一マーケット
後援会提供の軽食・デザート・飲み物 等

バザーもたくさんのご協力のおかげで大盛況でした。
ほんとうにありがとうございます。

11月の集計

交流会バザー14000円
バザー 3910円
古本 350円
切手・ハガキ 252円

いつもご協力
ありがとう
ございます。



統計部

10月 受信データ

	一般	ナビD	FD	コロナFD	計
松山	513	115	65	64	757
東予	139	27	—	—	166
南予	47	6	—	—	53
総数	699	148	65	64	976

東予分室の受信件数が増加した。
総数も1000件に近い数となった。
このペースであれば今年は去年の受信件数を
上回る見通しである。



こころみカフェ
*12月10日(土)
11時~17時

済美会館研修室



古本市も同時開催!
ぜひお立ち寄りください。



事務局からのお知らせ

41期8名の実習が始まります

どうぞよろしくお願いいたします

3年ぶりに松山で開催した41期養成講座
順調に座学を終え、修了式を迎えること
になりました。いよいよ実習に入ります。

しばらくは研修サポーターと一緒に入りますが
何度かするとサポーターの手を離れ
文字通り一人で相談業務に当たります。
一緒に入った先輩相談員の皆さん、困っている
ような時はどうぞ助けてあげてください。

相談員1日研修について

11月23日(水 祝)に開催予定でしたが
参加者が一定数に満たず、残念ながら
中止となりました。
「三度目の正直」がぜひ実現しますよう
願っています。

HPを開けて「なかま」を見よう！

「愛媛いのちの電話」HPを検索



トップページの「いのちの電話
関係者」をクリック

<パソコン>をご利用の方…
トップページの上部右側に記載

<スマートフォン>をご利用の方…
トップページを下部にスクロールした
一番下に記載



パスワードを入力

パスワードは「当番表」の
<お知らせ>をご覧ください。

ご覧になる
号をクリック



あとかたづけをきちんとしよう

もういちど！

①相談室の窓に注意！

ロールカーテンが下りていても、窓が閉めてあっても、カギがきちんとかかっているか、念を入れて、確認しましょう。

②エアコンのスイッチに注意！

OFFになっていることを確認しましょう。

③トイレの窓に注意！

暗くなったら閉めてカギをかけましょう。

④研修室の戸締り・エアコン・照明、大丈夫？

特にベランダ側の戸を確認しましょう。

⑤夜間最後の人は、廊下天井の照明をOFF！

玄関の照明は、つけたままで構いません。
階段横の集合スイッチに廊下と明記されてます。

⑥済美会館のスリッパは廊下まで！

相談室には入れません。アルコール消毒ポール
スタンド横のスリッパ棚に入れましょう。

年末年始のお知らせ

12月29日(木)～1月4日(水)、事務局は
お休みいたします。よろしくお願いいたします。

【済美会館からのお願い】

済美会館も12月29日(木)～1月4日(水)
休みます。その間、正門(自転車置き場側・
東側の門)に黄色いプラスチックの鎖を取
り付けます。出入りの際は西側の門(加戸建
材側の小さい門)を利用するか、正門の鎖
を外して入るようにしてください。なお、鎖
は外した後、元に戻すようお願いします。

期間中の建物への出入りは玄関横会議室
のドアからになりますので、どうぞよろしく
お願いします。廊下の照明は消灯のままと
してください。

「いのちの電話と対話の力 ～人々に共感を届けるために～<はじめに>」

What's up?



福山清蔵（元日本いのちの電話連盟研修委員長）著より

私は1975年にいのちの電話に参加して、いらい45年の間ボランティアの方々と共に過ごしてきました。その多くの時間は東京いのちの電話の研修委員であり研修の講師としてでした。

私が参加した頃はいのちの電話には「カウンセラー」（その頃は臨床心理士という資格はまだ日本にありませんでした）はごく少数であり、いのちの電話は教会や福祉や教育や医療関係の方々が組織の中心にいて運営していました。

・・・省略・・・

「電話相談」に関する理論や技術を学ぶことはまさに手さぐりでした。ボランティアたちは対話の理念と使命に関してはすでに学んでいましたが、じっさいの電話での対応でとても戸惑っていたようです。参加していた専門家たちは、彼らが持つ経験や知識をいのちの電話の研修に持ち込もうとしていましたが、木に竹を接ぐような状態でした。我が国の歴史上初めての電話による相談活動の宿命とも言いましょうか、当初はどうしても既存の理論や方法論に依拠せざるを得なかったのです。

・・・省略・・・

私といのちの電話との付き合いの歴史は、「いのちの電話の対話に求められているのは何か」を模索する歴史でした。市民の素朴な感性、真剣さ、誠実さ、対等性などが議論されてきました。

市民の力に依拠するいのちの電話であり、相手と直接に会わないいのちの電話であり、自殺への危機介入としてのいのちの電話であるなど、電話だけで対話するという制限の中で、人と人をつなぐものをどのように創り上げるのかについての問いを感じてきました。いのちの電話ではいわゆるカウンセラーを育てるべきなのでしょうか、それともほかの道を目指すべきなのでしょうか。ともかく市民の感性の豊かさを生かすには中心になる何かが必要でした。

本冊子で探求する「共感」はその模索の過程で温められてきたコンセプトです。筆者の未熟さゆえに未だ表現が不十分ですが、この先もいのちの電話にとって大切なものであると考えています。

いのちの電話の歴史は1977年にいのちの電話連盟が掲げた「市民による対話」を基本軸として、温かさ、誠実さを保ちながら「人々の人生に向き合う」活動として受け継がれてきました。

一方、いのちの電話が開設されたころ、社会的に「相談員の資質」が問われました。それまで、カウンセラーがその資質や技量を問われたことはありませんでした。つまり、非専門家である市民が人を対話によって援助する資格があるのかと問われたのです。

しかし、今日いのちの電話は、ここにあるということですので人々を支え、励ましています。それには長い道のりが必要でした。電話で話を聴き続けることは簡単なことではありません。人生に打ちひしがれている人に向き合うのは困難な辛いことなのです。からかいや脅迫もありました。それでも、ボランティアは懸命に電話で話を聴き続けていたのです。いのちの電話は人を援けるために存在しているのではなく、孤独を聴くためにこそ存在しているのです。孤立している人とつながることのために存在しているのです。日本には人々の孤独の哀しみを聴く組織はどこにもなかったのです。

・・・省略・・・

膨大な知識の海の中でどこまでの知識がいのちの電話の活動に必要なのかは未確定です。そうであれば市民の健全な知性と感性を信じるのが求められていると思うのです。

私たちは苦しんでいる人を批判することではなく尊敬すること、孤独に悩んでいる人を貶めることなく労ることが求められているのです。

そして、全国に広がったこの活動が何らかの力に支えられているとすれば、それは「市民による共感する力」だと確信しています。

・・・省略・・・

いのちの電話50年の歴史の中で大切に育まれてきた思想をこの機会に理解、共有していただけることを切に願っています。

